

| | | | | | | |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|
| 指定校番号 | 28053 | 学級活動 | 児童会・生徒会活動 | ○ | 学校行事 | 別紙様式 |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|-------------|----|-------|--------|-------|
| 学校名 | 安芸高田市立吉田小学校 | 校長 | 平川 博秀 | 生徒指導主事 | 松本 浩司 |
|-----|-------------|----|-------|--------|-------|

取組事例名 『児童会活動の取組』

取組のねらい『キーワード：自主的・実践的な態度，自治の力』

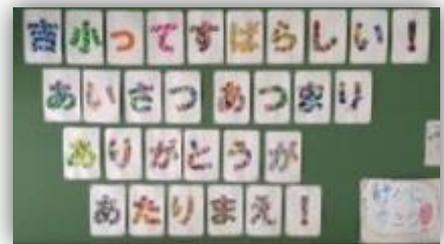
- ・ 集団の一員として，よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ・ 児童会活動を通して，よりよい学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自治の力を高める。

取組の具体的内容『キーワード：児童会学校目標，2週間チャレンジ，ボランティア活動』

1 児童会学校目標の設定「吉小ってすばらしい！あいさつ，あつまり，ありがとうがあたりまえ！」

- ・ 年度当初に，代表委員会を行い，昨年度の吉田小学校のよかったところや頑張りを振り返った。その後，児童会執行部を中心に，今年度の児童会学校目標を決めた。

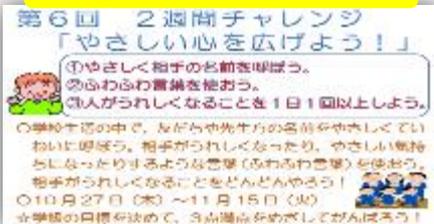
このことにより，今年度，吉田小学校をどのような学校にしていきたいか，児童全員で共通の目標を持つことができた。



2 2週間チャレンジの取組

- ・ 毎月1回程度，児童会執行部が中心になって「生活目標」を決め，具体的な評価項目を設定して2週間取り組んだ。日々学級ごとに帰りの会で振り返りを行い，2週間後に代表委員会で結果を交流した。その後，次回の2週間チャレンジの目標について各学級の意見を聞き，次の目標設定を行った。

2週間チャレンジポスター



2週間チャレンジの取組一覧表

| | |
|-------------------|-------------------|
| 1 黙動（もくどう）をやりきろう！ | 5 黙動（もくどう）をやりきろう！ |
| 2 着ベル・傾聴姿勢をがんばろう！ | 6 やさしい心を広げよう！ |
| 3 右側歩行に気を付けよう！ | 7 もくもくそうじをやりきろう！ |
| 4 気持ちのよいあいさつをしよう！ | |



もくもくそうじ



黙動（もくどう）



くつそろえ

3 各委員会によるボランティア活動

- ・ 児童会学校目標を実現するために，各委員会がそれぞれの役割をもとに，吉田小学校をさらによりよくするためのボランティア活動を計画して取り組んだ。



あいさつボランティア



壁磨きボランティア



花植えボランティア

取組の課題・創意工夫『キーワード：意欲付け』

・2週間チャレンジの振り返りをする中で、目標に対して、学級実態や発達段階に応じて課題が微妙に違うため、すべての学級が意欲的に取り組めていないという課題が明らかになった。

そこで、取組開始から1週間後に、給食放送で取組の意図や様子を伝えたり、目標を達成した学級には「〇〇認定証」「〇〇賞」などを渡したりするなど、評価の工夫等を行った。これらのことが児童の意欲につながった。



もくどうマスター認定証

・各ボランティア活動については、始まった当初、活動が休憩時間に行われるため、参加する児童が少なかったり、同じ児童に偏っていたりすることがあった。そこで、給食放送などで実際に参加した児童にインタビューをして感想を聞いたり、活動の様子を写真で掲示したりするなど、ボランティア活動の様子を伝えた。このことにより、いろいろな児童にボランティア活動の輪を広げることができた。

取組の成果（効果）『キーワード：自治的活動』

- ・年度当初に、各学級の吉田小学校への思いを取り入れながら、児童会学校目標を設定したことで、各学級の児童が「吉田小学校を、自分達でよりよくしていきたい。」という意識を持つことができた。
- ・2週間ごとに生活目標を設定し、学校全体で取り組むことで、吉田小学校への所属感や一体感が高まった。また、高学年が率先して取り組み、下学年の手本となったことが効果的だった。
- ・各委員会が工夫しながら、様々なボランティア活動に意欲的に取り組むことができた。徐々に活動の輪も広がり、吉田小学校のためにできることをする喜びを感じる児童が多くなった。
- ・11月に行った児童アンケートでは、「係や委員会の仕事をがんばっている」が96%、「くつそろえ」「着ベル」「もくもくそうじ」「黙動」「右側歩行」はいずれも90%以上の児童が肯定的に回答していた。

今後の展開『キーワード：継続から学校風土へ』

- ・今後も、こうした児童会活動の流れを継続し、自分達で生活をよりよくするために、目標を決めて取り組む活動や、さらによりよくするための活動の充実を図っていきたい。
- ・代表委員会でも、少しずつ吉田小学校をよりよくするための意見や課題提示等がなされるようになり、子供達の中に少しずつ「自治の力」が育ってきているのを感じることができた。今後は代表委員会の内容を充実させるなど、自分達で話し合っ解決しようとする学校風土を創っていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード：話し合っ解決』

「学校生活をよりよくするのは、自分達だ。」という学校生活づくりへの参画意識を児童に持たせるためには、普段の学校生活の中で、いかに児童の思いや気づきを引き出し、話し合っ解決するという経験を多く積ませるかが重要である。本校では、昨年度から少しずつ学級活動(1)の取組の充実を図るとともに、



学級会の様子(1年生)

「学級会の定例会」に取り組んでいる。そのことによって、児童に「生活の中で問題を見つけたり、生活がよりよくなるようなアイデアを思いついたりした時には、クラスのみんにに相談しよう。」という意識が高まりつつある。また、全校児童集会や各委員会によるボランティア活動等を行うことで、上学年が下学年を思いやり、下学年が上学年にあこがれをもって、仲よく協力して支え合おうとする人間関係ができてきている。こうした日々の自治的な活動を地道に行うことが、児童の自主的・実践的な態度の育成につながるとともに、自治的な集団の育成につながると考える。今後も取組を継続していきたい。